

第7期第4回 新潟市亀田地区公民館運営審議会 議事概要

日 時： 令和3年2月24日（水） 午前10時～午前11時30分

場 所： 亀田地区公民館（江南区文化会館）多目的ルーム

出席者： 新潟市亀田地区公民館運営審議会 植木委員、遠藤委員、小見委員、斎藤委員、田村委員
塚野委員、弦巻委員、戸田委員、横木委員

（五十音順）

事務局	亀田地区公民館	澤栗（館長）、原（主任）、笠原、小林、榎本
	曾野木地区公民館	山上（館長）
	横越地区公民館	岩橋（館長）、高山

1 開会 議長あいさつ

2 議事（報告事項）

（1）令和2年度事業中間報告について

（事務局） 令和2年度事業実施結果（1月末現在）を報告

（田村委員） 亀田地区公民館の「コミュニティコーディネーター育成講座」の実施状況を知りたい。昨年の参加人数を考えるとこのコロナ禍でこの事業を実施できるのかと心配していた。また「大人の絵本時間」について、参加したいと思ったが参加者の前提が乳児、幼児期の保護者に限られていた。祖父母も子どもに接する機会が多いので、もう少し窓口を広げて欲しかった。参加人数が少なかったのが残念だった。

（事務局） 「コミュニティコーディネーター育成講座」については、5項目で感染対策を行い実施した。1つ目は参加者の限定。使用する部屋の定員数を通常の50%とし、いくつかのグループに分けてプログラムに参加してもらうため、先着50名で事前申し込みとした。2つ目は「いざ！カエルキャラバン」のひとつのプログラムである「かえっこバザールオークション」を中止した。昨年非常に人気だったが密が避けられないため、中止を告知した。3つ目は換気や消毒、健康チェックシートの事前提出などの感染予防対策を行った。4つ目はプログラム時間を1プログラムあたり15分以内とした。15分以内であれば濃厚接触者とならないことから時間設定を設けた。5つ目は各グループに専任のスタッフをつけて、消毒や時間管理の徹底を図った。参加者アンケートでは「楽しかった」「またやりたい」の回答がほとんどだった。スタッフ（講座受講生）も、毎年継続して受講している方、地域の防災士さん、NPOで働いている方、コミュニティ協議会からの参加など、防災に対する意識の高い方から大勢参加いただいた。

（田村委員） コミュニティ協議会からの参加は5地区全部からの参加か。

（事務局） 全地区からはなかったが、「防災士」として申し込んだ方でコミュニティ協議会にも所属しているという方も結構いた。その方たちからは、次回の地域の防災のところにこのプログラムを提案、実施してみたいとの話もあり、こちらも次年度はそれに応えられるようなプログラムを検討していきたいと思っている。

「大人の絵本時間」は、「ゆりかご学級」の代替事業であったため、はじめは乳児期の保護者対象とした。その後「お子さんにかかわる方はどなたでも」と広く募集をしたが、周知が間に合わない部分があった。保育なしでの開催のため土日が参加しや

すいのではと企画したが、小さなお子さんを土曜日の家族団らんの中、預けていくのは抵抗があるお母さんが多く、参加に繋がらなかったと思う。来年度は子どもにかかわる機会がある人に幅広くという形の事業計画もあるので、そちらに繋がっていくと考える。

(遠藤委員) 今回、オリンピックにかかわるところで、「人権」、「多様性」という言葉がキーワードのようにあちこちで言われていた。公民館の事業を見ると曾野木地区公民館の「共生セミナー」で発達障がい当事者を迎えて学習会が開かれ、横越地区公民館では、児童期・思春期家庭教育学級でLGBTとか、今の多様性にかかわる部分を取り上げて講座を開いていることは、とてもありがたいと思った。実際、講座の参加者は、当事者が多かったのか、それとも当事者以外の方が学ぶ場として提供したのか、教えていただきたい。

(事務局) 「共生セミナー」では見た目の判断になるが、当事者と思われる方も何人かいらっしやっただけのように思う。そのほかに発達障がいの学級を持っているような先生もいらっしやっただけのように思う。大変好評のうちに終わり、アンケートによる満足度も100%だった。

(田村委員) 横越地区公民館の人権講座「大丈夫！あなたはあなたでいいんだ！」を受講したが、講師のお話もよかったが、参加者が自らの体験談を話すなど非常にいい講座だった。横越地区公民館は、「関心のある方ならどなたでもどうぞ」と講座に関心のある人なら誰でも参加できるところが素晴らしい。これからの公民館は、こういう問題を現代社会の問題として、もっと取り上げていくべきだと思う。

(斎藤議長) 我々が生きていく中で、女性、高齢者、発達障がいの人たちとともに、どうかかわりながら皆が活躍していくかというようなことが、公民館が地域教育を担っていく中で大きなテーマになっていくと思う。

(事務局) 「大丈夫！あなたはあなたでいいんだ！」は、4回講座で実施し、1回目は「子どもが生きていくのに必要な権利とは？」で嫌なことは嫌と伝えようということがメインの話だった。2回目はLGBTについてで、新潟市のパートナーシップ制度第1号の方から自身の体験談を語っていただいたが、その際、先ほど田村委員から話があったが、参加者が自分もそうだという話をされた。3回目は「学校に行けなくたって、あなたは大切な人」で不登校についての話だった。この回だけ参加したいという人も多く、不登校で悩んでいる親御さんから「良かった」という声をいただいた。4回目は子どもの人権について法律面からの話だったので、少し難しいようだったが分かりやすくお話しいただいた。募集については、ホームページに掲載したり、県立図書館にチラシを出すと、いろいろな区や市外からの申し込みがある。定員に余裕があれば市外の人も受け入れている。

(小見委員) それぞれの公民館が、新型コロナウイルス感染症対策で工夫やご苦労をされ、社会教育の場を提供しようと頑張っている姿に敬意を表したい。本来社会教育は、対面してお互い交流し合ったり触れ合ったりすることで、創造的な効果が生まれるメリットがあるのではないと思うが、おそらく今後は、今までの対面式だけではなく、オンラインも取り入れていくようなハイブリットというか、併用型が定着するのではないと思う。今回亀田地区公民館がオンラインを経験しているが、何か気づいたことはあるか。

- (事務局) 亀田地区公民館としても初めての試みだったが、講師側もオンラインを研究したいということで、金銭面を含め全面協力いただき実施にこぎつけた。今回公民館での講師と参加者、在宅での参加者、兵庫県から参加の講師という3箇所を繋いだこともあるが、スムーズな進行には、現場と画面の向こうとをコーディネートする人が必要であることがわかった。またWi-Fi環境が整っていない公民館も多いことから、施設整備の問題と何より職員の知識不足があり、今後は職員のスキルアップが必要である。今まで交通費がかかって依頼できなかった講師にも遠隔で講義をお願いしたり、在宅でなら参加できるという利用者に参加してもらえるなどオンラインのメリットもあることから、講座の内容、題材によってどのようなやり方がいいか考えていきたい。
- (小見委員) いろいろな制約があると思うが、高齢者や若者、それぞれに適したやり方を提供し、いろいろ組み合わせながら、工夫をしていってほしい。

(2) 令和3年度事業計画(案)について

- (事務局) 令和3年度新潟市公民館事業の基本方針及び令和3年度事業計画案を説明
- (横木委員) 横越地区公民館のNo.4「地下道清掃」は継続して実施しているが、この事業自体は公民館事業として実施するようなものか。
- (事務局) 通学路清掃として長い間実施している事業である。確かに実施主体について疑問があり、以前学校に問い合わせたこともあるが、学校としては手が回らないこと、コミュニティ協議会と一緒に街灯清掃を行っていることから、子どもたちの活動をボランティア事業として位置づけ、名前を「ピカピカ大作戦」とし、ライオンズクラブや地域の大人からも参加してもらって、公民館事業として実施している。
- (横木委員) 予算がついていないようだが。
- (事務局) ライオンズクラブやコミュニティ協議会から必要な消耗品を揃えてもらったり、JAから子どもに飲み物を提供してもらったりしてやりくりしている。
- (田村委員) 公民館が核となっているということか。
- (事務局) はい。
- (横木委員) 筋道から言えば、コミュニティ協議会がやるべきだと思うが、今までの流れもあると思う。了解した。
- (田村委員) 同じように大江山公民館の「文化とスポーツの祭典」だが、予算もついていない中で公民館はどうかかわっているのか。実際コミュニティ協議会からお金が出ていると思うが、会議には参加しているのか。
- (事務局) 実行委員会のメンバーとなり、会議にも参加している。公民館としては、事前準備や当日の会場設営等、頼まれたことをお手伝いする程度だが、事業としてはかなり大規模で、コミュニティ協議会だけでは運営実施は難しいのではと感じている。
- (田村委員) 予算ゼロなのでかかわっていないと思っていたが、そういう関係だと分かった。
- (斎藤議長) 先ほどの事業もそうだが、どこが旗立てをするかは、今までの経緯もあると思うので、いずれにせよ協力してやっていければいいのかと思う。
- 今回亀田地区公民館で「孫育て」があるが、おじいさん、おばあさんの時の子育てとまた少し変わってきている。学問が進んできて新しい知見も出ている。今の時代の最先端の心理学や教育学の知見をこういう人たちに伝えていくことは大事だと思う。企画として立ち上がったことはすごく喜ばしい。

(田村委員) 「孫育て」について要望したい。時期が2月の気候が一番厳しいときに設定されている。時期についてはお母さんたちの産休明けを考えて設定したと説明があったが、高齢者からたくさん参加してもらうためには、対象者向けの時期はいつがいいかということも考えていただきたいというお願いである。

(斎藤議長) 開催時期については、スケジュール調整もあると思うのでご理解いただく部分はあると思う。今後も新型コロナウイルス感染症の事情がより難しくなってくると、Zoomやオンラインの活動をどうしていくか、そのためには機材を揃えたり、環境を整えたりしなければいけない、そういうことも公民館として考えていかなければいけない。時代にあった公民館活動を考えていく必要があると思う。引き続き来年度も皆様の協力と努力をよろしくお願いしたい。

【配布資料】

- ・資料1－1～3 令和2年度事業中間報告（亀田・大江山・曾野木・両川・横越）
- ・資料2－1～3 令和3年度事業計画（案）（亀田・大江山・曾野木・両川・横越）